

Special
Contents

現場で学び、オカムラのありたい未来の姿を考える

「サステナブル未来会議」を実施

オカムラグループのパーパスである「人が活きる社会の実現」に向けて日々丸となって企業活動を続けるなかで、オカムラグループがサステナビリティに取り組む理由についてより深く向き合うため、2022年から開催しているサステナビリティ研修をパワーアップし、2025年から「サステナブル未来会議」に刷新。環境・社会課題が起こっている現場で学び、オカムラのありたいサステナブルな未来の姿を考えました。

サステナビリティの“モヤモヤ”を
晴らすための取り組み

「サステナビリティが会社として重要なのは分かるが、日々の業務に追われて具体的に何をしたいかわからない」「現場では優先順位がどうしても低くなってしまふ」そんな“モヤモヤ”を少しでも晴らすことが会社の明日につながるのではないかな。そのように考え、2022年からサステナビリティ推進担当が主催していたサステナビリティ研修を刷新し、従業員一人ひとりがサステナブルな未来について考え、対話し、答えを模索していく場として、「サステナブル未来会議」を実施しました。

「サステナブル未来会議」の参加者

サステナブル推進担当者会議に参加する各事業本部から選出された代表者4名と、社内公募による参加者を含む計41名が参加しました。（関連 ▶P.12）

「サステナブル未来会議」のステップ

プロセス

1

体験：現場で学ぶ
（釜石・富士・つくば）

プロセス

2

社員同士の対話

プロセス

3

言語化・まとめ
サステナビリティ委員会にて提言

プロセス

4

取り組みの拡充

2025年9～11月

拠点：3カ所 日数：6日 総勢：41名

2025年12月～2026年3月

推進担当

今後

さらなる実践と企業文化の醸成へ

社会や自然について学ぶ
「知識・理解・体験」から、
次のアクションを考えるきっかけに

2025年度は、現場・地域・自然から学ぶ「原体験」を起点とし、エヌエスオカムラ（岩手県釜石市）・富士事業所（静岡県御殿場市）・つくば事業所（茨城県つくば市）の3拠点における「サステナブル未来会議」を実施。現場での学びと社員同士の対話から得た気づきをもとに、オカムラのありたい未来の姿を言語化してまとめました。ボトムアップからの意見としてサステナビリティ委員会にて提言しました。



つくば市の地元農家での収穫体験

「サステナブル未来会議」が目指すもの



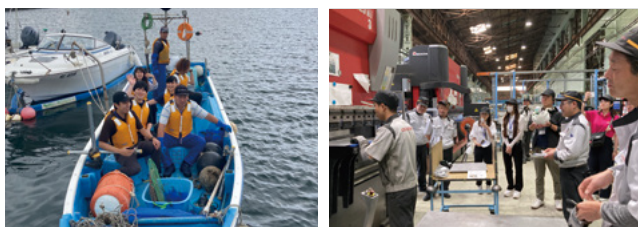
Special Contents ▶ 体験と議論のオリジナルプロセス

「地球・社会のサステナビリティ」から「人が活きる社会の実現」へ

ものづくりの現場からオカムラのサステナビリティ活動を見つめ、さらに企業活動を支える「地球・社会のサステナビリティ」を現地で学びました。そして、オカムラのありたい姿は「地球・社会のサステナビリティ」の実現を通して、パーパスである「人が活きる社会の実現」につなげることだと考えました。

1 体験：現場で「地球環境」「地域」「社会」などの課題について五感で学ぶ

in 釜石・エヌエスオカムラ 「震災と復興そして漁業」
(2025年9月11・12日)



地元の漁師さんから東日本大震災の震災時の状況や「磯焼け」による生態系変化などについて話をいただき、海と共生する地域の課題を体感しました。

in 関東平野・つくば事業所 「農業の課題と気候変動」
(2025年11月19・20日)



地元の農家での収穫体験とともに、気候変動や後継者問題など地域が抱える課題について幅広く伺いました。

in 富士山：富士事業所 「自然共生と水質保全」
(2025年10月16・17日)



自然の中で働く体験を通じ、ネイチャーポジティブな環境の価値と可能性を実感。また、水質検査によって水と企業のつながりを学びました。

VOICE



サステナブル未来会議
参加者の皆さん

同じ目線で語り合える仲間を増やしたいです

今回の未来会議に参加した仲間のように、これからもたくさんの人たちとアイデアを出し合い、オカムラと社会のサステナブルな未来をつくっていききたいです。そのためにも、同じ目線で語り合える仲間をもっと増やしていきたい。日頃の業務の中でサステナブルなものに触れる機会が増えることによって、仲間も増えていくと感じています。また、サステナブルな人財が増えれば、これからの会議では「この選択は未来を持続可能にするか？」という問いが当たり前のように交わされるかもしれません。ますますサステナブルへの関心が巡る企業文化を育んでいければと考えています。

2 しっかり対話・とことん議論

現地での学びをもとにワークショップ

それぞれの現場における「原体験」を持ち帰り、オカムラが創りたい「人が活きる社会」とは何なのかを問い直すために、メンバー間で白熱した議論が展開されました。

3 言語化・まとめ・提言

未来像を

カタチにして提言

オカムラのありたい姿を青写真化。アイデアと提言をまとめ、ボトムアップの意見としてサステナビリティ委員会にて提言しました。

グラフィックレコーディングの手法も使いながら検討を重ねた



© Sketch Communication 原純哉

Special Contents ▶ オカムラと社会のサステナブルな未来へ

「サステナブル未来会議」から抽出された要素を方向性としてまとめ、オカムラのありたいサステナブルな未来を提起。未来へ向けてどんな“場”を創造したらよいか、みんなで想いを巡らせました。その結果抽出されたのが、キーフレーズと自然と人・働き方が共生する“場”、資源と価値が循環する“場”、人生を謳歌する“場”、という3つの“場”です。

「人が活きる社会」は、健やかな地球とそこに集う人々の笑顔から生まれる。
オカムラは私たちが創る「場」を通して、サステナビリティが文化として広がる「次世代に誇れる未来」を築きます。

自然と人・働き方が共生する“場”



ネイチャーポジティブを
社会全体に広げる

サステナビリティにおいて、自然との共生は欠かせない視点です。自然との接点を普段の働き方や場づくりとつなげて考えることによって、地球市民としてのあり方を常に問い続け、環境のことを意識し続けます。オカムラは、ネイチャーポジティブな意識と行動を社会全体に広げていきます。

社会インパクト

働く場に自然との接点を組み込むことで、環境への関心を一部の人の意識ではなく、日々の働き方の中に根づく行動へと変えていきます。心身の健やかさと環境保全意識の向上を両立し、ネイチャーポジティブが自然に広がる社会の実現に貢献します。

💡 人が活きる環境の創造

🌱 地球環境への取り組み

- 取り組み事例
- 生物多様性保全 ▶ P.64 ~ ▶ P.68
 - 「ビオトープ富士」環境省「自然共生サイト」に認定 ▶ P.66

資源と価値が循環する“場”



サーキュラーエコノミーに
貢献する
ものづくりの推進

製品や空間を長く使い、生かし直すことは、資源やエネルギーを循環させ、新たな価値を生み出すことにつながります。オカムラは、ものづくりと共創を通じてサーキュラーエコノミーに貢献していきます。

社会インパクト

資源を使って終わるのではなく、長く生かし続ける価値観を社会に広げ、循環を前提としたモノ・コトづくりへの転換を促します。価格だけに依らない共感と信頼に基づく選択を増やし、持続可能な消費と事業活動の定着に貢献します。

🌱 地球環境への取り組み

🤝 責任ある企業活動

- 取り組み事例
- オカムラグループのデザインポリシー ▶ P.30 ~ ▶ P.31
 - 省資源・資源循環 ▶ P.55 ~ ▶ P.57
 - 製品・サービスにおける環境配慮 ▶ P.58 ~ ▶ P.63

人生を謳歌する“場”



人々を笑顔にする
ウェルビーイングな
働き方の実践と発信

多様性を意識しながらも共通項を探し求めた結果、大切なものとして抽出されたのが“ウェルビーイング”です。オカムラは、働く場所や使う人の背景・属性によって異なるウェルビーイングのあり方に向き合い、多様な人が自分らしく力を発揮できる場づくりを通じて、誰もが笑顔でそれぞれの人生を謳歌できるようサポートできる企業となります。

社会インパクト

多様な背景や生活状況に応じて、自分らしく働き、社会とつながり続けられる環境を広げます。一人ひとりのウェルビーイングと自己実現を支えることで、誰もが活き活きと活躍できる社会の実現に貢献します。

💡 人が活きる環境の創造

👤 従業員の働きがいの追求

- 取り組み事例
- オカムラグループのデザインポリシー ▶ P.30 ~ ▶ P.31
 - デザインポリシーに基づく製品開発 ▶ P.32 ~ ▶ P.33
 - 「Work in Life (ワークインライフ)」という考え方 ▶ P.77
 - 「働きがい改革 WiL-BE 2.0」の推進 ▶ P.77 ~ ▶ P.79